

# 天然ヒラメ親魚からの採卵について

## ヒラメの産卵期における採卵・採精 親魚の相対成長について

田 内 大

Acquisition of fertilized eggs from matured flat fishes,  
*Paralichthys olivaceus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) landed at  
Jogashima Island -

Total length-body weight relationship between matured male and female  
flat fishes, during spawning season

Masaru TAUTI

栽培漁業が全国各地で実施されつつあり、魚類ではマダイ、ヒラメ等がその対象種に挙げられている。

ヒラメ *Paralichthys olivaceus* (TEMMINCK et SCHLEGEL) の人工ふ化については、1898年藤田(1933)によって、それが試みられて以来、増田、他(1964)、原田、他(1966)等によって人工ふ化仔魚の飼育研究が行われ、また採卵については熊井、他(1971)の研究がある。

筆者は1969~'74年、ヒラメの種苗生産に関して採卵・仔稚魚飼育の試験を行ったが、それらのうち本報告では、天然ヒラメ親魚の産卵期における採卵・採精親魚の相対成長について報告する。

なお、産卵期における相対成長式を採卵・採精親魚について求めることは、相対成長式が得られることのみではなく、親魚養成の際の目標とすべき全長、体重の関係式が得られるのでこれを求めた。

### 材料および方法

神奈川県三浦市三崎町城ヶ島地先の七目網(刺網)によって、1969および'73両年の産卵期において漁獲され、軽く腹部を圧迫して採卵・採精できた天然親魚の全長(TL.cm)、体重(BW.g)を雄16尾、雌9尾の計25尾について測定し、雌雄別ならびに雌雄を一括して相対成長式を求めた。

### 結 果

雄は全長40.0~56.3cm、雌は全長53.0~79.0cmの範囲において、全長と体重の関係式を求め第1図に示したが、雄のみについては $BW = 0.00132 \times TL^{3.52012}$ 、雌のみについては $BW = 0.19770 \times TL^{2.31754}$ 、さらに雌雄一括では $BW = 0.00157 \times TL^{3.2600}$ が得られた。

### 考 察

ここで求めた体重は、採卵・採精後であり、また、親魚が羅網中に放卵・放精していた可能性もあるので、産卵期における体重はこれらの値より雌雄とも若干大きい

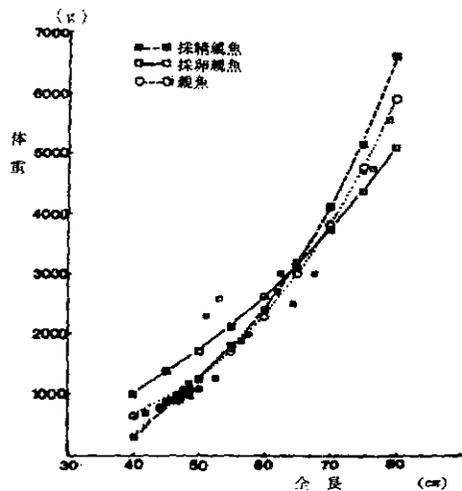


図1 1969および'73両年の産卵期における採卵・採精親魚の雌雄別および親魚の相対成長式

と考えられる。ところで、雄に比較して雌の勾配が小さく全長約65cmを境にして、それ以上では同じ全長に該当する体重は雄において重く雌において軽い、また、全長65cm以下ではその逆となり、ともにならかなり差がある。このことが雌雄各々の特性であるのか、卵・精巢の成熟に関係する現象なのかは明らかでないが、いずれにしても産卵期以外の期間における相対成長を知って検討する必要がある。

#### 引用文献

- 藤田経信(1933):カレイ類の養殖,水産蕃殖学,56~78,厚生閣(東京).
- 原田輝雄・榎田 晋・村田 修・熊井英水・水野兼八郎(1966):ヒラメの人工ふ化仔魚の飼育とその成長について,近畿大学水産研究所報告,1,1~15.
- 熊井英水・中村元二(1971):養殖ヒラメ1年魚からの採卵と仔魚飼育,昭和46年度日本水産学会秋季大会講演要旨集.
- 増田辰良・田中二良(1964):ヒラメの幼生飼育,昭和38年度水産増養殖研究報告,22~32,水産庁.